

設定温度の見直し

○ 冷房時はエアコン設定温度を高く、暖房時は設定温度を低くすることで節電になります。

試算例

9時～20時の間、空調設定温度の見直しをすると...

■ 節電効果：**節電効果 14万円/年** 【高圧電力S単価を適用】

節電電力 約 8.5kW
節電電力量 約 7,500kWh

■ 対策内容： 設定温度 冷房(26℃⇒27℃), 暖房(22℃⇒21℃)

■ 計算式： 節電電力(kW) = 定格消費電力 × 最大負荷率 × 削減効果
節電電力量(kWh) = 定格消費電力 × 平均負荷率 × 削減効果 × 対象時間 × 対象日数

(試算条件)

定格消費電力: 122kW(パッケージエアコン 8HP × 1台, 18HP × 7台)

最大負荷率: 70% (仮定)

平均負荷率: 40% (仮定)

削減効果: 10%

対象時間: 11時間/日(9:00~20:00)

対象日数: 140日/年(夏期60日, 冬期80日)

[実際の試算では、ご使用機器の仕様や対象時間及び日数などを考慮した数値をご使用ください]

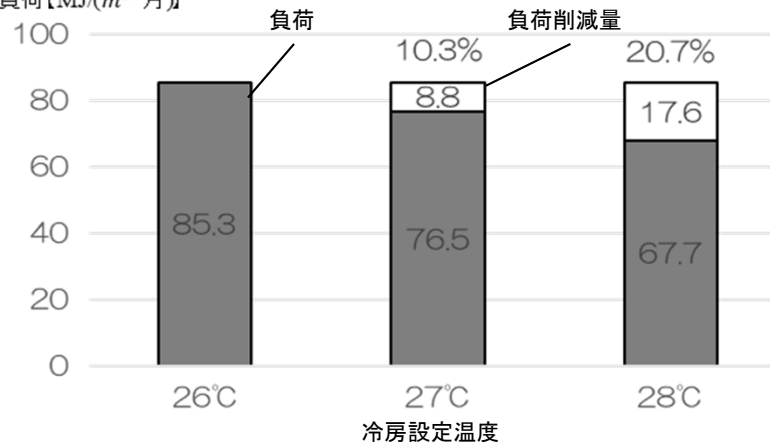
ポイント

- 体調に影響を及ぼさない範囲でお取り組みください。
- 電気室やサーバー室などは、設置機器の保護温度(および実際の室内温度)を確認し、温度設定してください。

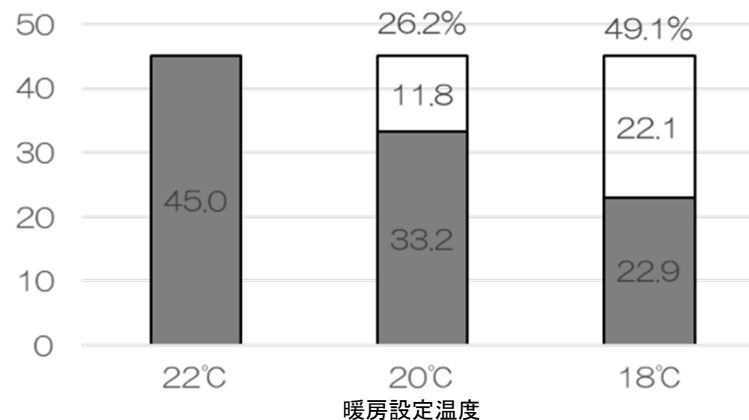
参考

出典: 2021 ビル省エネ手帳[(一財)省エネルギーセンター] P26 図-2より

月間冷房負荷[MJ/(m²・月)]



月間暖房負荷[MJ/(m²・月)]



注) 本内容はお客様の運用状況等によって異なる場合がございます